

# News & Scope Handai Hospital

阪大病院ニュース

第28号

発行/大阪大学医学部附属病院広報委員会 (総務課)  
http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp

禁転載 (この紙面は再生紙を使っています)

住所/〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-15 TEL/06-6879-5021

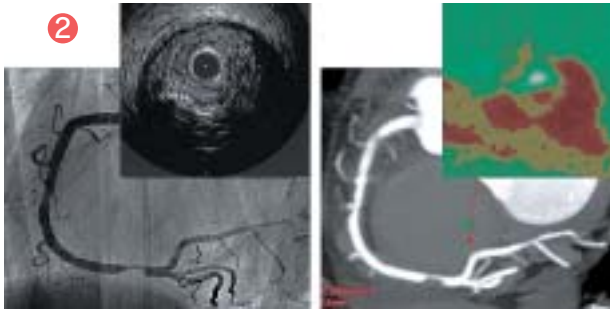
きめ細かな看護ができる心臓血管集中治療室(CVCU)

腹部大動脈瘤に対するステント挿入

## ハートセンターがオープン

### 体に優しい 先端医療を

### 循環器内科と心臓血管外科が協力



血管内超音波やMDCTを利用した冠動脈疾患の診断

循環器内科と心臓血管外科が協力して心臓病の患者さまを治療、ケアするハートセンターが阪大病院にオープンしました。カテーテルを利用した体に優しい冠動脈疾患の先端治療を中心に、安全で質の高い医療を提供するとともに、新しい診断・治療法、治療器具の開発や若手医師の教育にも力を入れていきます。

心筋梗塞など冠動脈が狭くなって起こる病気の治療には、細い管(カテーテル)を太ももの付け根や手首の血管から挿入し、エックス線で透視しながら、狭まった血管を広げる経皮的冠動脈インターベンション(PCI)が中心になってきています。

阪大医学部に今年3月、PCI及び大血管疾患の血管内治療の診療や研究をする寄付講座「先進心臓血管治療学

講座」が開設されました。PCIは、冠動脈バイパス手術を行う外科的治療法と薬物療法が中心の内科的治療法の中間とも言える治療法です。この講座の開設を機に、外科と内科の垣根を取り払って、総合的に心臓病を診断・治療、ケアする同センターをつくることになりました。

#### CVCUが4床

センターの特徴はCVCU(心臓血管集中治療室)写真1が4床あることです。これまでの重症治療室より看護師の数も増え、よりきめ細かな看護ができるようになりました。

#### 最新ステント療法

センターでは患者さまの症状に適切な治療法を選択することになります。冠動脈疾患では、血管が再び狭くならない

#### 体外への負担軽減

不整脈の治療においてもカテーテル治療が主流になってきています。カテーテルアブレーションと呼ばれる治療法で、不整脈の原因となっている心筋にある回路を、カテーテルを通して挿入した電極で焼き切つてしまおうのです。薬物療法で抑えることが難しい不整脈には患者さまの体への

ように常に薬剤が溶け出るように工夫された薬剤溶出性ステント(DES)と呼ばれるステント(メッシュ状の金属筒)を使うことが多くなっています。新しくできた寄付講座の南都伸介教授はステント治療のエキスパートでもあります。

#### 突然死を防ぐ

しかし、DESを挿入して、一度は回復した患者さまの中に、冠動脈の別の場所が狭窄してしまうことがあります。再度、PCIをしてもいいのですが、費用面や再狭窄のリスクを考えると、冠動脈のバイパス手術のほうが患者さまにとってメリットである場合があります。

また、大動脈瘤治療は、これまで過大な侵襲を伴っておりましたが、澤芳樹副センター長以下により、低侵襲で安全なステントグラフト治療を導入し、良好な成績を得ています。写真2。

負担も少なく、期待される治療法です。心不全の治療も進歩してくるようになります。また、大動脈瘤治療で回復が難しい心不全には、心臓ペースメーカーが埋め込まれてきました。これまでのペースメーカーは血液を大動脈に送り出す左室の収縮リズムをペースメーカーが調節していましたが、左室と右室の収縮期がずれるためにポンプの働きが障害されて心不全には、両心室同期ペースメーカーの埋め込みも行っています。

さらに、不整脈や心不全が原因で起こる突然死を予防する装置も開発されています。埋め込み型除細動器です。最近、学校やデパートなどにも設置されるようになってきたAED(自動体外式除細動器)の埋め込み型です。これを埋め込むことによって、突然死を防げる可能性が高くなります。両心室同期のペースメーカーに埋め込み型除細動器機能のある装置も開発され、すでに保険適用になっています。センターでもすでに埋め込み手術を行い、成果を上げています。

地域医師会への心臓病治療に関する啓発活動や若手医師に対するPCIの指導、初期研修制度の確立なども今後の課題となっています。堀正二センター長は「センターの発足により、阪大病院の心臓病治療がより充実していきます」と話しています。

心不全の原因で起こる突然死を予防する装置も開発されています。埋め込み型除細動器です。最近、学校やデパートなどにも設置されるようになってきたAED(自動体外式除細動器)の埋め込み型です。これを埋め込むことによって、突然死を防げる可能性が高くなります。両心室同期のペースメーカーに埋め込み型除細動器機能のある装置も開発され、すでに保険適用になっています。センターでもすでに埋め込み手術を行い、成果を上げています。

センターの役割は診断、治療だけではなく、研究、教育も大きな柱です。より安全な心臓血管カテーテル治療のために、GPS機能を利用してカテーテルを確実に病巣まで挿入できるようにするシステムや狭い血管をくぐり抜ける新しいステントの開発などを工学部や企業と連携して行っています。

### がん相談室を開設

地域の人々のがんに対する疑問や不安にこたえる「地域がん相談室」を阪大病院に開設しました。

阪大病院は地域のがん診療の充実を図るために厚生労働省の「地域がん診療連携拠点病院」を目指して、市民がんフォーラムを開くなどがん診療について、地域へのがんに関する情報提供を積極的に行ってきましたが、相談室の開設もその一環です。

相談の対象となる人は豊能医療圏(大阪府吹田市、豊中市、箕面市、池田市、豊能郡)に住んでいることが基本です。

がんに関する一般的な質問はもちろん、ご自身をはじめ、家族、友人などががんになったときに、どのような治療法があるのかこの病院に行けばいいのか主治医に対してどのような質問をすればいいのか——など気軽にお尋ねください。また、がんに対して不安に思っておられることでも結構です。

### 豊能医療圏の居住者対象に

しかし、患者さまやそのご家族が、現在受けている治療について具体的に相談されたいときには、阪大病院の「セカンドオピニオン外来」を利用していただけになります。

相談の受け付け方法は封書だけです。電話やメールでは受け付けておりません。相談内容を書き添った返信用封筒に切手をはり、ご自身の住所を書いて同封のうえ、下記まで郵送してください。

相談内容に応じて専門医が文書で回答させていただきます。

【送付先】 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-15 大阪大学医学部附属病院保健医療福祉ネットワーク部



### 先端的がん診療シリーズ 第3回 市民公開フォーラム参加者募集

<日時>12月1日(土) 午後1時~4時  
<場所>大阪大学医学部講義棟 A講堂  
<定員>250名 参加無料  
(申し込み多数の場合は抽選)

#### <講演内容>

- (1) 我が国に多いがんの最新治療
  - ①前立腺がん:泌尿器科(前立腺センター)野々村祝夫准教授
  - ②大腸がん:消化器外科 関本貢嗣准教授
- (2) 消化器がんの免疫療法 —最近の進歩—  
樹状細胞制御治療学:考藤達哉准教授
- (3) 質問コーナー

<申し込み方法>往復はがき(1通につき1名)に必要事項(氏名、住所)をご記入のうえ、11月1日(木)必着にて、下記へお申し込みください。ご参加いただける方には参加票(返信はがき)を送付致します。なお当日質問したい事項のある方は、同じはがきに内容をご記載下さい。

〒565-0871 吹田市山田丘2-15  
大阪大学医学部附属病院総務課広報評価係内  
市民公開フォーラム係  
<お問い合わせ>大阪大学医学部附属病院総務課  
広報評価係 TEL:06-6879-5020、5021  
※申し込みされた方の個人情報参加に伴う連絡のみに使用します。

### 市民15人が病院見学会

阪大病院を広く市民の皆様にご覧いただくために、9月28日に病院見学会を行いました。多数の応募者から選ばれた15人の参加者が、大学病院の仕事や患者としての目にするのではない場所、部外者は立ち入れないエリアの見学を行い、大学病院を身近に感じていただきました。

### 高校生が1日看護体験

大阪府主催の高校生の「一日看護体験」として、府立小路高校、府立茨木西高校、府立吹田高校(定時制)から計17人の生徒を受け入れました。当院での受け入れは今年で2回目です。

高校生らは病棟で、検温、洗髪、患者さまとの会話、配茶・配膳、新生児のだっこやミルクの授乳、車椅子の護送など患者さまのご理解とご協力をいただき、指導看護師と一緒に学びました。

高校生らは、「白衣を着たことで緊張感もあったけどとても良かった」「これから一生懸命勉強して、患者さんを元気づけ、頼られる看護師になりたい」と、看護師を将来の職業の一つとして具体的にイメージできたようでした。



### オープンテラスが好評

病院アメニティ計画の一環として患者サービス向上のため、今年2月に憩いの場としてライトコートを改装して開放感のあるオープンテラスとして開設しました。連日、軽食や飲み物を取りながら、ゆったりと歓談されたり、本を読んだりする患者さまやお見舞いの方々がたくさんいらっしゃいます。病院内のリラックスできるスペースとして、大変好評です。

### 皆様の笑顔求めてVol.2

栄養マネジメント部は、病院食について、入院患者さまを対象にアンケート調査を実施しました。アンケートは773名を対象に、一般治療食と特別治療食に分けて行いました。回収率は一般治療食59.9%、特別治療食が67.4%でした。

病院食の満足度に関しては、一般治療食で約4割、特別治療食で5割の方が「満足」「やや満足」と評価されています。味付けに関する調査では、一般治療食の約5割、特別治療食の約4割の方が「やや薄い」「薄い」と回答されました。これは、前回の調査結果と同様、日常の食生活において、塩分過剰摂取に注意する必要があることを再認識させられる結果となりました。

#### 病院食に新しい風を

特別治療食では、今年4月から、最近話題になっている雑穀を混ぜた十穀米(白米との割合8%)と玄米(白米との割合33%)を提供する新たな試みを始めました。約9割が「美味しい」とし、そのうち7割の方から回数を増やしてほしいとの要望がありました。こ

### 栄養マネジメント部の病院食事アンケート

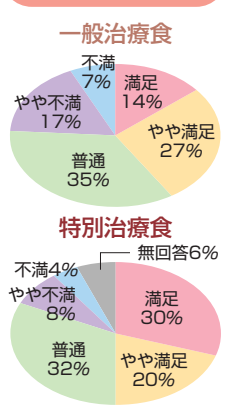
れを受け、開始当初は隔週でしたが、8月からは毎週1回にしました。

#### 心を込めて創味工夫

一般治療食では、今年4月から選択食を一日の中で昼食が肉料理ならば夕食は魚料理からの選択メニュー構成に変更しました。肉ばかり食べるような選択の仕方をしていない患者さまが選択メニュー申込み者の約3割いらっしゃることがわかり、治療上の観点、また食育という視点からも適切でないと栄養マネジメント部として判断したためです。選択メニューの変更に関しては、85%の方に「良い」と回答いただけました。

これからも、時代のニーズに即し、季節の食材を取り入れた新メニューを提案し、病気の治療に役立つ、患者さまに喜んでいただける食事づくりに励んでまいります。

当院の食事に満足されていますか?



## 神経内科 すべて診察します

### 脳卒中、物忘れ、手足のふるえ、しびれ、めまい...

大阪病院の神経内科・脳卒中科は脳卒中の急性期から慢性期までを診るのももちろん、もの忘れ、手足のふるえ、歩きにくい、しびれや手足が勝手に異常が起こったりして

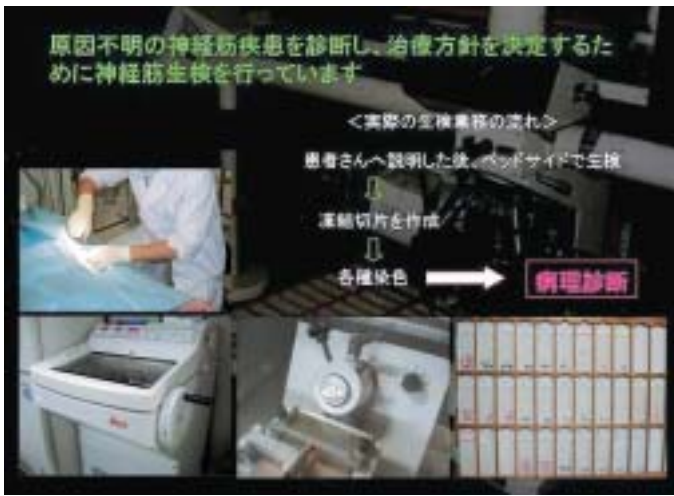
動く、めまいや頭痛などの症状を表す病気が多い。これらは神経筋肉が変性したり、難治性の病気が多くあります。脳卒中に関しては、脳卒中センターが発足しました。循環器内科や高度救命救急センターと連携して、的確な画像診断に基づき、血栓溶解薬「tPA」を血管内に注入して素早く血流を再開し、できるだけ後遺症のない治療を行っています。大学病院ではトップクラスの治療成績を誇っています。

また、パーキンソン病など脳疾患による運動機能の回復を客観的に評価できる技術を開発しています。薬の効き具合やリハビリの効果等を判断できるのではないかと期待されています。

また、複数の科が協力することによって、痛みが軽減することも明らかになってきました。例えば、痛みがひどくてリハビリができません。家庭でも手軽に使えるような装置の開発にも取り組んでいます。

麻酔科ペインクリニックの住谷昌彦医師は「1年間の活動が認められつつあり、難治性の痛みの患者さまが紹介されています。これから、研究に力を入れます。日本疼痛医療センターを目指します」と話しています。

へ専門医を派遣して、成果を上げ、国際協力にも貢献しています。真下節センター長は「1年間の活動が認められつつあり、難治性の痛みの患者さまが紹介されています。これから、研究に力を入れます。日本疼痛医療センターを目指します」と話しています。



原因不明の神経筋疾患を診断し、治療方針を決定するために神経筋生検を行っています。実際の生検業務の流れは、患者さんへ説明した後、ベッド上で生検。凍結切片を作成し、各種染色を行い、病理診断を行います。



(上) ポスニア・ヘルツェゴビナでの鏡治療法  
(下) 経頭蓋磁気刺激療法

### 疼痛医療センター発足1年

### 痛みの治療多様に

麻酔科ペインクリニックだけでなく、神経外科、整形外科、精神科、神経内科や漢方

医学、薬剤部、看護部、リハビリテーション科など診療科の枠を超えて「痛み」の診断、治療を行う疼痛医療センターが発足して1年になります。これまで各科で異なっていた痛みに対する認識が、国際疼痛学会のガイドラインに則った見方に統一されつつあり、適切な治療が行われるようになってきました。また、難治性の疼痛に関しては新たな治療法も開発され、臨床応用も始まっています。

また、複数の科が協力することによって、痛みが軽減することも明らかになってきました。例えば、痛みがひどくてリハビリができません。家庭でも手軽に使えるような装置の開発にも取り組んでいます。

「1年間の活動が認められつつあり、難治性の痛みの患者さまが紹介されています。これから、研究に力を入れます。日本疼痛医療センターを目指します」と話しています。